

事業活動を通じた花王の社会的責任

人々の豊かな生活文化を実現するために、
「清潔で美しくすこやか」な暮らしを手助けする商品を生み出す努力を続けています。

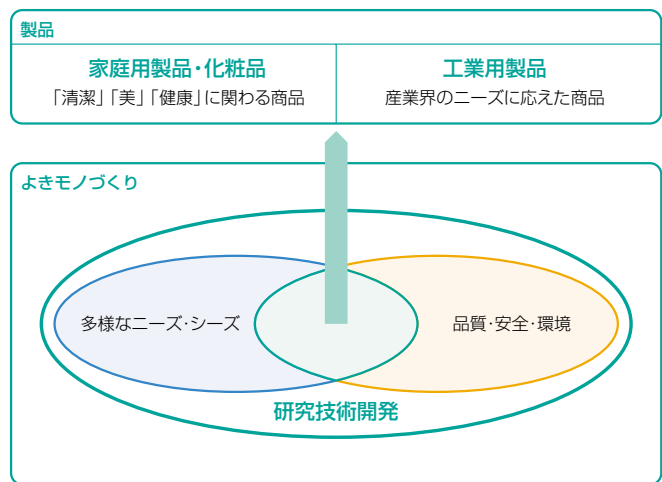
豊かな生活文化の実現に貢献する“よきモノづくり”

花王では、商品をつくり出す際、心をこめた“よきモノづくり”を行うことを企業使命として掲げています。“よきモノづくり”とは、消費者の「清潔で美しくすこやか」な暮らしに役立つ商品を生み出すこと。それにより、世界の人々の豊かな生活文化の実現に貢献することが花王の社会的責任です。

また、商品を通じた貢献により、全てのステークホルダーの支持と信頼を獲得し、社会の持続的発展に寄与することができるという信念のもと、日々の業務を行っています。

消費者・顧客の多様なニーズとオリジナリティあるシーズとを融合させ、かつ品質、安全、環境に配慮したものがこそ、真に社会に貢献できる商品であると考えています。

よきモノづくりと研究開発



2005年度活動事例

各国の生活・慣習に合わせて

グローバルな観点から、それぞれの国の生活実態に目を向け、真に最適な商品の開発をめざしています。たとえば、タイでは手洗いで洗たくをしている家庭が多く、大きな家事負担になっています。それを踏まえ、2005年に手洗い用の洗剤「Attack Easy」を開発。汚れ落ちがよいのはもちろんのこと、もみ洗いの労力を軽減した洗剤です。たいへんな家事を少しでもラクに、という思いで取り組み、つくりあげた商品です。



環境負荷の低減に寄与

より環境負荷の少ない商品を生み出し、より環境負荷の少ない方法でつくり、提供する努力を続けています。

2006年3月には、「超臨界二酸化炭素を利用した機能性複合粉体の製造技術開発」が、「グリーン・サステナブルケミストリー※」推進の一環として認められ、平成17年度化学工学学会技術賞を受賞しました。機能性複合粉体製造は、主にベースメイクアップ化粧品などに活かされる技術。製造工程において有機溶剤の使用を省くことができ、環境にやさしく安全なプロセスで商品をつくり出すことが可能です。



※ グリーン・サステナブルケミストリー：商品設計、原料選択、製造方法など、商品の全ライフサイクルを見通した技術革新により、「人と環境の健康・安全」「省資源・省エネルギー」などを実現する化学技術

新しい生活提案型商品の開発

OA機器の普及、冷暖房設備の充実など、生活環境の変化に伴い、腰痛、肩こり、胃腸の不調、疲れなど、さまざまな身体の不調を感じる人が年々増加する傾向にあります。花王では、これらの身体の不調への対処として、「温熱治療」に着目。その研究成果をもとに、2005年10月「めぐりズム 蒸気温熱パワー」を発売。現代人のためのデイリーヘルスケア用品として、新しい生活提案を行いました。



真に社会に必要な商品を生み出す研究開発

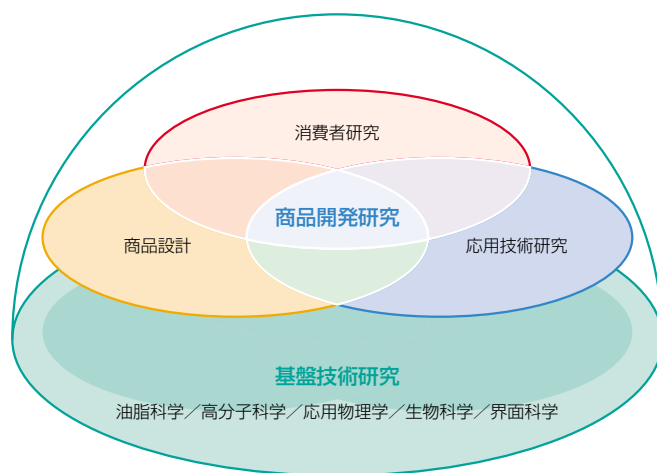
“よきモノづくり”の中核をなすのは研究開発です。

研究開発には、消費者ニーズを背景に商品を生設計し実用化する「商品開発研究」と、ものごとの仕組みを解明する「基盤技術研究」の2つの活動があり、両者を融合させることで革新的な商品の開発に取り組んでいます。

商品開発研究では、消費者のニーズを深く理解する消費者研究をもとに、具体的な商品設計と応用技術研究を行っています。また、商品開発を行うために重要な役割を果たす基盤技術研究では、さまざまな領域の先端の科学・技術を活用してものごとの背景にある真理を掘り下げる研究を行っています。

これらの研究開発活動を通じて、人々の暮らしがより「清潔で美しくすこやか」になるよう、真に価値ある商品の開発をめざしています。

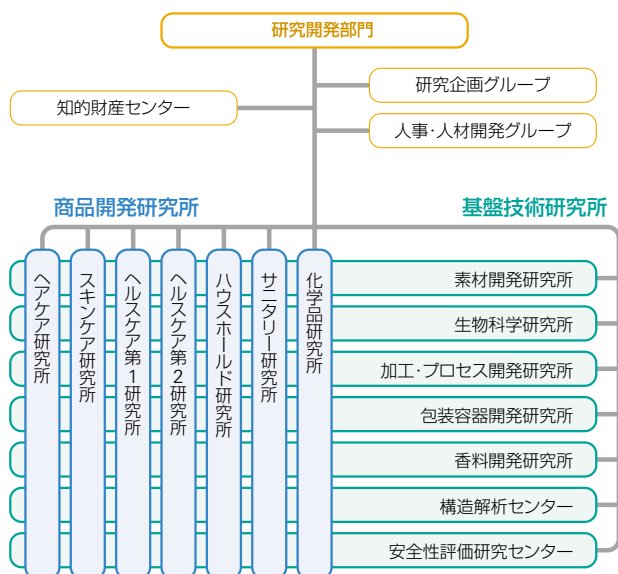
重層的な研究開発体制



複合的な研究開発体制

商品開発研究所と基盤技術研究所は、ともに研究開発部門というひとつの組織に属しています。課題ごとに、さまざまな組み合わせで両者が共同して研究を推進する「マトリクス運営」が行われています。この運営の仕組みにより、それぞれの専門領域の知識が柔軟に交わり、研究開発のスピードアップにも貢献しています。

研究開発体制図



Column

花王の研究開発活動とCSR

研究開発部門のスピリットは、花王の企業風土の中核をなす“よきモノづくり”へのあくなき挑戦です。我々は、消費者、顧客にとって最もよいものは何かという視点で、革新的な価値の創造をめざしています。より高い消費者・顧客価値を的確に実現するには、コアとなる基盤技術を深耕し世界に通用する技術を構築する必要があります。環境対応技術についても花王の重要な基盤技術のひとつととらえ、環境問題に対する世界の動向などを先取りした技術開発をめざしています。今後も社会・環境に配慮した、真に社会に有用な商品・サービスの開発・提案を通して、環境負荷の低減・資源の再生の拡大などに積極的に取り組んでまいります。



研究開発部門統括
沼田敏晴